

# 新たな時代、未来社会への 安全と安心を目指して



大阪市消防局長 城戸 秀行

1400年の歴史のある街「大阪」は、古くから海上や陸上の交通の便がよく、多くの人が集まり、経済の中心として栄えてきました。

5世紀ごろには、現在の大阪市中央区付近に存在したとされる難波津（なにわづ）が、その当時に新しく開港した港として、朝鮮や中国のほか、アジア諸国から訪れる人々を迎える日本の玄関口として利用され、貿易と文化交流において重要な役割を果たし、国際的な都市として発展してきました。

1970年、世界の77カ国が参加し、国内外から1日平均3万人の来場者を記録した万国博覧会が大阪で開催され、世界中からたくさんの人が集まり、大阪が一気に国際色の豊かな街になりました。

また、当時の万博では、交通手段となる高速道路や地下鉄、モノレールの建設など、大規模な開発が進み、現在も日常の交通手段として、多くの人々に利用されています。

万博開催中の安全面では、万博消防として、特設消防署と2つの出張所を配置するとともに、大阪市消防局をはじめ、隣接する消防本部から160名の隊員を派遣して、消防ポンプ車、救急車など24台を運用し、開催期間中に発生した火災や救急などに対応しました。

そして2025年、再び万博が大阪で開催されることとなりました。

大阪市此花区にある人口島「夢洲（ゆめしま）」をメイン会場として、『いのち輝く未来社会のデザイン』をテーマに、「2025大阪・関西万博」として185日間の開催が予定されており、今から6年後の開催に向けて、準備が進められているところです。

このように万博機運が高まる中、万博に先駆けて、今年の6月28日、29日の2日間、世界最高峰の国際会議「G20大阪サミット」が開催されます。

このサミットには、37の国と地域、国際機関からG20の首脳のほか、招待国の首脳、国際機関の代表などが参加し、世界経済に大きな影響を与える地球規模の課題について議論されます。

開催期間中は、各国要人やマスコミ関係を合わせ来阪者数は3万人を見込んでいるとともに、大都市の都市部で行われることもあり、安全で安心な会議環境の確保が絶対条件となっています。

そこで大阪市消防局では、昨年4月より消防局内に「サミット消防対策室」を設置して、各関係機関とともに万全の準備を進めており、今年度最初の大きな国際行事を成功させることで、安全な都市「大阪」を世界に発信できるとともに、国内外から大阪を訪れる、すべての方々の安心につながるものと考えています。

G20サミット、万博と国際行事が続く中、益々国際化が進み、国際都市としての都市格を備えていく上で、昭和23年3月の自治体消防の発足と時を同じくして、初代局長が示された局是「明・強・敏（明るく、共に励みて強からめ、いざ立つときは敏く応えて）」を基本理念として、71年の歴史を受け継ぎながら、いつの時代もその局是のもとに、職員が一丸となって任務を全うしていかなければならないと考えます。

今年は、年号が「平成」から「令和」に変わり、新たな時代が始まりましたが、これからも私たち大阪市消防局は、地域住民や地域の事業所、各関係団体と連携を図り、市民の皆様が安心して暮らせる災害に強いまち、安全な都市をめざして、未来の地域社会に根ざした消防施策を進めてまいります。